



讀書以耕心田

為吉川中学校 岡崎嘉平太

岡崎嘉平太さんの書『讀書以耕心田』吉川中学校所蔵

嘉平太さんの母・のぶさんの里は数分歩けば行ける所がありました。そこへ行くと本が沢山あり、嘉平太さんはよく本を読みに行き、特に赤穂義士の話が好きだったそうです。中学生の頃から歴史が好きで、覚えて言えるほどに読み込んだそうです。

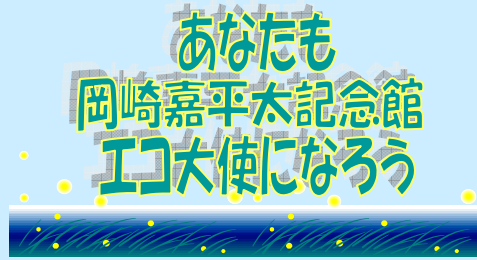
記念館では嘉平太さんの部屋にあった本を約三千冊寄贈を受けています。

嘉平太さんが遺した書『讀書以耕心田(讀書をもって心田を耕す)』は、讀書を

して心を豊にしたいという願いが込められています。

記念館には、みなさんに読んでもらえるように『三国志』などの中国の

歴史物語や環境についての絵本などがおいてあります。読みに来てください。



小学四～六年生に呼びかけて、夏休みに記念館で、エコについて実験や見学を通していっしょに学ぼうと考えています。そして、調べたり、わかったりしたことをまとめて、みんなで発表会をして学びを深めましょう!

編集・発行：岡崎嘉平太記念館

〒716-1241 加賀郡吉備中央町吉川4860-6 きびプラザ内

TEL 0866-56-9033 FAX 0866-56-9066

ホームページ <http://www.okazaki-kaheita.jp>

Eメール okmh@okazaki-kaheita.jp

2009.7



岡崎嘉平太記念館だより

Vol.11



嘉平太氏が 出会った人々



郭沫若氏から後楽園に寄贈された2羽の鶴前で (左から1人おいて三木元岡山県知事、嘉平太氏) 昭和31年

中国の文学者、歴史家、政治家。四川省出身。第六高等学校(岡山)を経て九大医学部卒。耳疾患のため文学に転向。一九二七年に中国共産党入党。蔣介石を批判したため追われ、日本に亡命(一九二八)、千葉県に住居を構え、中国古代史等を研究。三七年帰国、抗日文化宣伝を指導した。中華人民共和国成立後は、政務院副総理、科学院院長、中日友好協会名誉会長などを歴任。



郭沫若氏と嘉平太氏

郭沫若氏 (一八九二～一九七八)

印象に残る中国人

何人も居ますが周總理のように深く、日本のことを論ずるにも一緒になるという人は居ないですね。もう一人、日本で有名な郭沫若さんというのが居ますね。六高を出て福岡の医科大学に行っているんですが、医者になるのをやめて文士になったんです。この人は非常な日本最良でした。：中略：私は北京で郭沫若さんの家によく呼ばれたんですが、そのときの奥さんは中国人だった。それから郭沫若さんも亡くなるし、奥さんも亡くなってしまった。：中略：郭沫若さんが日本に来たとき(昭和三十年十二月)、昔は六高に居て後楽園に鶴が居るのを見ていたから、鶴の居ないのを見て、帰国後二羽送ってきたんです(昭和三十一年七月)。それが雄か雌か分からないので、もし雄同士だったり雌同士だったりしたら、言ってくればまた送るからと言ってくれていたんですが、そこまで無理を言うのはお気の毒だということでしたが、釧路の近所に鶴が集まる所があるんですが、あそこへ雄でも雌でもいいから送っておけば、雄であれば雌が来るし、雌であれば雄が来るというような話をしまして送らせました。岡山の飛行場に行ったら東京に帰ろうと思つたところ(昭和五十四年十月)、来た飛行機から鶴の子供が出てくるんです。何だと言つたら、岡崎さんがそういうアドバイスをしたんで送つておいたら、向こうで嫁か亭主を見付けて、それで出来た卵が孵つたんだそうです。：中略：後楽園も大分鶴が増えたことは大変良いことです。どうも鶴が居ない後楽園ではね。我々の後楽園も雄大さはないが非常に綺麗な公園でしょう。そこへ鶴が居て大股ゆつくり歩いていると景色になりますよ。

岡崎嘉平太伝刊行会編「岡崎嘉平太伝―信はたて糸愛はよこ糸―」より

(財)岡崎嘉平太国際奨学財団奨学生の第19年期奨学生5名と事務局の三橋さんが来岡され、吉備中央町にある嘉平太氏のお墓に参られました。

また、嘉平太氏の母校 大和小学校で交流したり、大和山山頂で桜の記念植樹や記念館の見学などもしました。桜の植樹は今年で9回目を数えます。奨学生は先輩たちの植えた桜が根付き育っている様子を興味深そうに見ていました。桜は、地元の方々の水やりや草刈りなどのお世話を受け、毎年春には美しく花が開き、だんだん大きく育っています。その姿をいつかまた見に訪れてくださればと願っています。



大和山山頂で桜の記念植樹

第19年期奨学生と大和地区の方々

楊立山さん〔右後三人目・中国〕
イレーンさん〔右前三人目・マレーシア〕
レスターさん〔左後三人目・フィリピン〕
王師さん〔右前二人目・中国〕
金雄傑さん〔左前二人目・中国〕

嘉平太氏の母校 大和小学校
四年生と交流



嘉平太氏の母校 大和小学校では、4年生の元気な子どもたちと先生方や地域の方が温かく迎えてくださいました。奨学生たちは、子ども達からの質問に答えたりゲームで触れ合ったりと楽しい時間を過ごすことができました。

第3回目を迎えた「嘉平太が愛したふるさと岡山 心なごむ風景写真展」の表彰式を開催しました。



表彰式にご参列くださった入賞の皆様

1列目右より平野允斌氏(審査員特別賞)土師亨氏(優秀賞)西島鎌司氏(最優秀賞)上田文子氏(優秀賞)、久山智二氏(審査員特別賞)鶴峯章吾氏(代理で奥様・審査員特別賞)

2列目右より松田雅郎氏(入選)杉本小銀氏(入選)大村純孝氏(入選)林 敏雄氏(入選)小畑衛司氏(入選)と松尾(財)岡山県郷土文化財団常務理事、河田岡崎嘉平太記念館長

嘉平太氏は、ふるさと岡山を家族や親族、友人や恩師と過ごした思い出と共に懐かしみ、いつも気にかけておられました。当記念館では嘉平太氏的心情を偲び、県内にある豊かな自然や人情味あふれる風景をみつめ直し、後世に伝えたいとの願いから「嘉平太が愛したふるさと岡山 心なごむ風景写真展」の作品を広く募集しています。今年は、この写真展も3回目を数え応募数も年々増え総数134点の応募がありました。5月10日に山陽新聞写真部部長 長瀬正己氏並びに日本画家 森山知己氏、そして当記念館館長 河田啓子で審査し、最優秀賞に西島鎌司氏の『春宵』と、その他入賞作品15点が選ばれました。どの作品も、力作揃いで、すばらしい展覧会が開催できることを大変うれしく、また、ありがたく思います。

応募していただいたすべての作品は7月19日(日)まで岡崎嘉平太記念館にて、7月22日(水)から7月27日(月)までは、天満屋地下タウンアートスペースにてご覧いただけます。



昨年「地球を救おう！もったいない作戦」に取り組んでいます。町内の小中学校の子ども達や高校生、多くの事業所の協力で1年間でざつ紙が**5,228** kg集まりました。

30年ぐら育った**木を104本** 守ったことになりました。